

建設業

監督者層のマネジメント能力の向上を目指す企業

7-3 住友金属プラント株式会社(和歌山事業所)

住友金属グループの高炉を守る

住友金属プラント株式会社は、住友金属グループの一社として、製鉄所のプラント整備で培ったノウハウを元に、一般製造設備・FA システム等の提案から設計、製作、据付（すえつけ）、保守に至るまでトータルエンジニアリングサービスを提供する会社である。

同社は、「鹿島プラント工業(株)」「住金和歌山プラント(株)」が合併、「住友金属工業(株)プラントエンジニアリング事業部門」の営業譲渡を受け、2003 年 4 月に発足した会社である。

社内での年 1 回の社内技能技術競技会の実施に加えて、外部の全国溶接競技大会に平成元年から毎年選手が出場するなど技能・技術教育に力を入れている。



住友金属プラント株式会社
代表取締役社長 原 三郎氏

お客様からの信頼の基盤となる技能検定

同社の技能育成、技能継承については、公的資格・検定の取得推奨に加えて、社内技能技術競技会・安全体感訓練、社内技能認定制度、職長レベル全員に高度熟練技能者の取得・育成、県溶接競技会等の社外競技会の参加の 5 つが柱である。高度熟練技能者とは、技能検定合格者を中心に一定条件を満たした技能者を中央職業能力開発協会が高度熟練技能者として認定する制度である。

技能検定受検を推奨しているのは、「住友金属プラント自体が何か物を作っているわけではなく、お客様への価値は腕が全てであったからである。」と整備部担当部長の村上氏は語ってくれた。平成 18 年から技能検定の受検推奨に加えて、技能検定に準ずる社内認定資格制度を作った。

技能検定・社内資格制度ともに、取得した資格や合格した検定に応じて毎月一定金額の報奨金（資格によって異なるが数千円から数万円）を支給するなど物心両面での支援を行っている。また、もう 1 つの柱である高度熟練技能者は、管理職（全員が技能士）を対象に取得させることによって、技能検定合格以降の指導者層に必要とされる技能レベルを明確にしている。

監督層全員が高度熟練技能者を目指す職場

同社の技能士活用の特徴は、監督者全員に高度熟練技能者の認定を必須としている点である。これによって、監督者層が社内では技能伝承指導員として技術・技能の指導的立場であると明確にしている。

技能伝承指導員は、「一声挨拶、一声激励、一声指導」の活動スローガンを元に、自分の職場を超えた若手の育成・指導を行っている。

そしてさらに彼らは、社内競技会の企画・問題作成・運営や技能伝承の戦略検討（「カン」「コツ」の可視化）等、現場への技能伝承以外にも多くの役割を求められている。

高度な技能とマネジメントスキルを育成

若手技能士の育成については、同社ならではの非常に恵まれた環境がある。社員たちは自由に技能の向上のために「高技館」を使うことができる。この施設は技能検定の実技試験の練習等、技能の向上に活用されている。

同社としても、技能検定になるべく多くの社員にチャレンジしてもらうことを目的に、平成 18 年に技能検定より難しい社内認定資格を整備した。社内認定資格試験にチャレンジして受ければ自信となり、技能検定受検時にも自信を持って臨むことができる。また、階層別に「身のこなし」と呼ばれる職場の役割・マネジメントスキルと求められる「教育・資格」を整理している。

技能士をはじめとした社外資格や検定・社内資格の取得といった目標に加えて、職場で職階に応じた役割・マネジメントスキルを意識させ、高度な技能とマネジメントスキルを持った人材の育成を目指している。

住友金属プラント株式会社(和歌山事業所)

▶業種: 建設業
▶住所: 和歌山県和歌山市
▶代表者: 原 三郎

▶設立: 平成15年4月1日
▶従業員: 745名
▶技能士: 617名(延べ数)

技能士へのインタビュー

村上 勝見氏（66 歳） 1 級仕上げ技能士

猪原 利行氏（61 歳） 特級仕上げ技能士



技能伝承の重鎮、村上・猪原氏を直撃！

今回は、同社の技能伝承・育成について全体のとりまとめを行っている村上技能士と、高度熟練技能者として高炉をこよなく愛する猪原技能士にお話を伺った。

村上技能士は、高校卒業後、同社に入社。入社以来、整備業務に携わってきた。現在は、整備部担当部長として技能教育・継承業務に注力している。

村上技能士は、1 級仕上げ技能士であり、平成 16 年に高度熟練技能者の認定を受けている。

猪原技能士は、村上技能士の後輩である。高校卒業後、同社に入社したという。入社以来、整備業務に携わっており、現在は課長として現場を取り仕切っている。

猪原技能士は、仕上げ特級に加えて平成 14 年には高度熟練技能者の認定を受け、社内でも技能伝承指導員として日々「一声挨拶、一声激励、一声指導」に励んでいる。

「高炉が好きやねん。この一言に尽きます」

村上技能士は、ここまで技能を磨き続けてきた理由として、「お客様に貢献するためには、技能を高めることが重要であり、設備の安定稼動のために日々腕を磨くことが必要」と語る。

猪原技能士は、「高炉が好きやねん。高炉に惚れているので。」と照れくさそうに話をしてくれた。

猪原技能士は、会社の高炉から見える煙でその日の高炉の様子が分かるというほど、「自分の高炉」という思いが強く、その高炉の安定稼動のために日々技能を磨くとともに後輩に伝えるための指導、文書化に取り組んでいる。



猪原技能士の指導の様子

監督者層として、全てに役立っている

村上技能士自身も高度熟練技能者である。彼は、会社全体の技能伝承・育成という観点から監督者層全員の高度熟練技能者化によって、技能だけでなく、マネジメントスキルの向上のためのしかけを作った仕掛け人である。実際、高度熟練技能者の認定を時間をかけて推進した結果、技能の向上だけでなく、現場横断的な若手の指導、その他技能伝承戦略の作成等管理者として必要な能力が向上しているという。

猪原技能士は、技能検定受検のきっかけについて、『『見よう見まねで』技能を伝承することも大切だが、今の若者に技能を伝承するためには理論的に指導することの重要性を感じた。』からと語る。

検定合格の意義を、「技能の全体的な把握や技能の振り返りによって、品質・効率向上のために自信を持って指導できるようになった。」と優しいまなざしで語ってくれた。

技能伝承指導員の腕章の似合う監督者に

最後に、今後の展望、目標について語ってもらった。

村上技能士は、「技能・技術のレベルアップと並行して、監督者の身のこなしも向上させて生産性向上に寄与したい。」と全体的な展望を語ってくれた。

猪原技能士は、「技能は奥深い。到達目標は意識するが退職まで勉強。終わりはない。」と語ってくれた。また彼は、「技能伝承指導員の腕章の似合う監督者」になりたいとも語ってくれた。この背景には、熟練技能者として高度な技能・知識はもちろん、包容力のある幅広い指導者でありたいという想いがある。

写真からも伝わると思うが、村上技能士、猪原技能士とも高い技能を兼ね備えているだけでなく、とても包容力のある技能士であった。若い社員にも「御安全に」と自ら声をかけるが、活動スローガンにあるようにあまり過度には声をかけない。若い社員たちに気持ちよく仕事をしてもらい、モチベーションを上げていくのが監督者層の仕事と語るその目は、とても温かかった。